ありのまま自分らしく



男女平等推進センター(エポック10)は昨年6月で30周年を迎えました。 今回は、当センターと関わってきた方々へのインタビューを交え30年を振り返ります。 これからも、一人ひとりの「自分らしい」生き方に寄り添っていきます。 **週男女平等推進センター(エポック10)☆5952-9501**

─30年のあゆみ、ちょこっと紹介/

男女平等推進センター開設

平成4年 6月

> 男女共同参画社会の実現に 向けて、性別に関係なく区民が 集い、学び、新しい生き方を創造する拠点 としてオープン。当時はメトロポリタンビル 10階にありました(平成17年に勤労福祉会 館、現IKE・Bizへ移転)。開設後は、女 性の就職支援、働き方、コミュニケーショ ンなどについて多様な講演・講座を行って いました。ほか、結婚・離婚、家族をめぐ る相談やビデオ上映会なども実施。開設1 周年の際は「輝いて! 安と第」をテーマに、 区民の方々の企画によるエポック10まつり が開催されました。



愛称「エポック10」って? 愛称「エポック10」って? **Equal Participation of** Community Habitants 頭文字が由来。10は開設 当時10階にあったことや 「十人十色」の10として今 も使われています。

🍾 開設当初から活動している方々に 💒 インタビュー!

豊島区女性史『風の交叉点』の編さんに携わり、活かし続けたいと活動している (左から)竹内瀧子さん、恩田輝代さん、有泉 三起子さん、佐々木 浩子さん、関根 有美子さん

私 たち編さん員は、長谷幸江立教大学講師(当時)の指導のもと、歴史の表舞台に登場しない女性 たちが語る人生を聞き、「聞き書き集」としてまとめました。個人的な歩みを聞き記録するだけで はなく、社会・歴史的背景も考えることを大切にしてきました。時には、門の前で家の人に断られたり、 出版前に「家族のことを考えると載せられない」と言われたりしたことも。当時、編さん員の中には夫に 「ちょっとパンを買いに行ってきます」と言って参加した方もいました。時代ですよね。編さん員は子育て や仕事の中で、これからの生き方や個々の生活からの思いをもって、ここまで来ました。エポック10は、 社会との接点であり、必りどころです。自分から考え行動することのスタート地点のような。現在は『風 の交叉点』から「教育」「戦争」「アトリエ村」などテーマごとに選び、エポック10フェスタや区民ひろばで 朗読しています。ぜひ小・中学校などで子どもたちにも聴いてほしいですね。

豊島区女性史『風の交叉点』全4集

豊島区に暮らした女性の生き方、生活を辿った聞き書き集と通史(監修 / 中嶌 邦日本女子大学教授(当時))。平成4~8年発行(ドメス出版)。 編さん員準備講座を受けた女性28名が、明治・大正・昭和初期生ま れの区内女性たち193名から聞き取りをし、録音テープ約350本を起こ した。当センターでも閲覧できる。

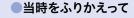


平成31年

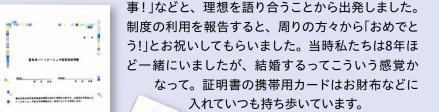
パートナーシップ制度の導入

一方または双方が多様な性自認・性的指向(※)の2人が、互いを人生の伴侶とし日常の生活にお いて協力し合うことを約束した関係にあることを、区長が確認のうえパートナーシップ届受理証明書を交 付する制度です。証明書の提示により公営住宅などへの入居申込みが可能になります。条例によって制定 されたのは、渋谷区に次いで2例目。現在56組の登録があります(1月1日時点)。

豊島区パートナーシップ届け出第1号 田中葉子さん(仮名)、和田えりかさん



立ち上げからアドバイザーのような形で関わっていました。最初は制り。大学生から「LGBTにつ 度を作るためにということでなく、「LGBTに限らず、色々なカップル いて活動したいのでぜひ話を聞きたい」と連絡が来たことも。その方



●変わってきたこと、そうでないこと 最近は制度が整ってきたので、理解が広がっ ているなと思います。会社で研修があったり、

制服もブレザー主流になった

が使える制度があればいいね」「届け出にお金がかからないことが大は当事者であることをさらっと言っていて、時代の変化を感じました。 自分が関わってきたことが次の世代へ活きてうれしいです。一方で、 制度の利用を報告すると、周りの方々から「おめでと その先につながっていくのはまだまだ時間がかかるなと感じます。例 えば保険。パートナーを受取人にすることはできるけれど、保険料控 除は受けられないんですよ。

■これからを生きる方へ伝えたいこと

もしも自分のことを理解されなくても傷つかなくていいし、離れても いいんです。本当にかわいそうなのは無知なことだと思うから。味方 になってくれる人が必ずいるし、つながる場を持ってほしいですね。 自分の中に閉じこもらないで外に目を向けてほしいです。

平成 14年 2月

男女共同参画都市宣言

区民一人ひとりの人権が性別などの違いに関わりなく尊重 され、その人らしく暮らしていけるまちを目指した宣言。こ の宣言を記念し、毎年記念講演会を開催しています。今年 度は、2月18日出に講演会「幸せのカタチは、自分で決め よう!」を開催予定。詳細は広報としま1月21日号(情報版) を参照してください。

女と男 一人ひとりがその人らしく 分かち合い 助け合い

ともに暮らしたい 豊島のまちで 豊島区民として 地球市民として

すべての人が互いの人権と 多様性を尊重し、ともに暮らせるまちへ

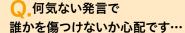
区制施行90周年の取組みとして、ジェンダー(社会や文化がつくってきた性差、 役割)への気づきや考えるきっかけとなる取組みを行ってきました。「男性は理 系、女性は文系」「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」など無意識の思い込 みによる言動や判断は自分や相手の可能性を狭めたり、だれかを傷つけたりす ることもあります。エポック10は、その人らしさを大切にし、自分自身が生き方 を選び暮らしていけるまちの実現を目指していきます。

・. ジェンダー・多様性への向き合い方を教えてください...

立教大学ジェンダーフォーラム所長 片上 平二郎さん

() ジェンダーって?

A.ジェンダーは、社会的に作られた枠組みです。絶対ではな くて動かせるものなはずなのに、人を強く縛って、狭いルー トに乗せる場合があります。それに気づかずに自らの選択だ と思っていることも。実は社会的な役割が決められているこ とで、ある意味安心感があるのも事実です。でもそれでは「生 きづらさ」を感じる人が出てきてしまう。誰もが社会的に求め られる役割と自分自身との間にずれがあって、そのずれを多 様性や個性というのだと思います。



A.誰かを傷つける可能性を恐れて ばってしまう違和感もよくわかり まりです。それを意識しながら、 自然体でふるまうことと変えた方 がいいこととの関係を私も日々考 え続けています。

() 多様性やジェンダーに どう向き合っていけばいいですか?

A.「考え続けること」「他者に出会 しまうことは当然ですし、それをう」ことが大切だと思います。考え 可能な限り避ける努力をするべきることは、自分が変わっていくこと。 でしょう。しかし、一方で、それの新しい自分との出会いを楽しんで を意識しすぎて自分の発言がこわ もらえればいいと思います。自分と 違う価値観に触れた時にも、それ ます。私たちの日常は矛盾のかたに対する拒否感に従ってしまうので はなく、その時のコミュニケーショ ンの中で自分が変わっていくことを まず楽しんでみてほしいです。

「性のあり方を構成する4つの要素]

①性自認 (こころの性)

③性的指向 (好きになる性)

自分の性別を どのように思うか どのような性の人を好きに なるのか、ならないのか

②身体的な性 (からだの性)

4)性表現 (表現する性)

基本的なからだの特徴を もとにした性、戸籍上の性

服装や立ち振る舞いなど 自分をどのように表現するか

※一般的に「性的マイノリティ」「LGBT」などと称されることが多い 当事者について、区では「多様な性自認・性的指向の人々」という 語句を用いています。

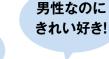
[性別であり方・生き方を決めつけないために]

無意識の思い込みは、日常にあふれていて、誰もがもっています。 その思い込み自体を否定するものではありませんが、無意識の思 い込みによる判断や言動がネガティブな影響を及ぼすことがある ので注意が必要です。

- 自分や相手の可能性を狭める
- 決めつけることで誰かを傷つけることにつながる
- 不公平な評価をすることで、やる気を失う

∖これってほめ言葉?/

君は男性より 優秀だね!



女性が製作したと 思えない!

\無意識の思い込みに関するアンケートを実施しました/

昨年9月に区立中学校3年生の生徒を対象に調査を行い、565名 の回答がありました。結果の一部を紹介します。

◆性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について 男女ともに、直接言われたり聞いた経験よりも、メディアで見た 経験の方の割合が大きく上回っています。

直接言われたり聞いたりしたことがある ※上位3項目

●女性

1	女性には女性らしい感性があるものだ	12.0%
2	女性は感情的になりやすい	10.8%
3	男性は人前で泣くべきではない	9.6%

●男性

	1	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	12.5%
	2	男性は人前で泣くべきではない	12.5%
	3	女性には女性らしい感性があるものだ	11.5%

テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある ※上位3項目

●女性

	1	家事・育児は女性がするべきだ	38.2%
	2	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	31.9%
	3	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	27.5%

●男性

1	家事・育児は女性がするべきだ	31.0%
2	男性は結婚して家庭を持って一人前だ	28.6%
3	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	27.5%

性別「無回答」を選択した回答者は27名。

4 広報としま特集版 令和5年(2023年) 2月号 No.2005